



さらば我が母校 「至誠力行」を人生の杖に



創立八十周年を迎えて改めて校訓に想いを馳せた。「至誠力行」一武藤健三郎初代校長は、校友会誌に制定理由を次のように認めていた。(至誠にして動かざるものではなく鬼神をも感動せしむるは至誠である。) 総務課は再読三読此数語に含まる無限の教訓を自ら求めて力を發揮さればそれまでよい、それで万事を解決し

て行く、「一生の燈台となり斗星となり得ると信じる」という。「米不足の中、米一斗中のコレスチロール値を下げる物質」二バクチノを発見した。高脂血症開発に貢献すとの想いを負う、叶えたのである。秋田市立高に編入、東北農大部卒業後、三共に北大農大部卒業後、入社、研究テーマを力づけ定めた。「純粋で粘り強い秋



きびしい冬の足跡が未だ残る今日、第七十六期生の卒業式が挙行される。

学校の顔として活躍してきた三

ある県人の生き方

学校長

菊 谷

—

走馬燈のように思い出している。このことから、走馬燈のよ

うに思ふ。走馬燈のよ

